

# 秋田県農業の図解・18

＝秋田県農業の特徴＝

## ⑪ 東北各県と比較した秋田県の稲作コスト その1

高山真幸

稲作の経営改善を進める上で、そのコストを節減することは極めて重要である。そこで、本県稲作の特徴について生産費と経営費の面から概観し、その軽減対策について2回にわたり考えてみたい。

農林水産省では、「米の政府買入価格の算定、米の生産対策及び稲作経営改善対策の基礎資料を得る」ことを目的として、毎年米の生産費統計調査を実施している。近年における水稻の作柄は、平成6年産が高温による豊作、その前年産が未曾有の冷害による凶作と大きく変動したが、平成4年産は作況指数の全国平均が101（地域別には、冷害による影響の大きかった北海道を除いて、100「平年並み」～105「やや良」）、東北平均が100、本県が99といずれも「平年並み」であった。そこで、平成4年産米の生産費統計調査結果を用いて、稲作経営の収益性について検討する。

物財費（種苗費、肥料費、農業薬剤費、光熱動力費などの流動財費と、建物、農機具など償却資産の減価償却費の合計）に労働費（家族労働の評価額と雇用労働に対する支払い額の合計）を加えたものが費用合計であり、それを基に算出される生産費には次の3種類がある。

- ① 生産費（副産物価額差引）＝費用合計－副産物価額…旧第1次生産費
- ② 支払利子・地代算入生産費＝生産費＋支払利子＋支払地代
- ③ 資本金利子・地代全額算入生産費（全算入

生産費）＝支払利子・地代算入生産費＋自己資本利子＋自作地地代…旧第2次生産費

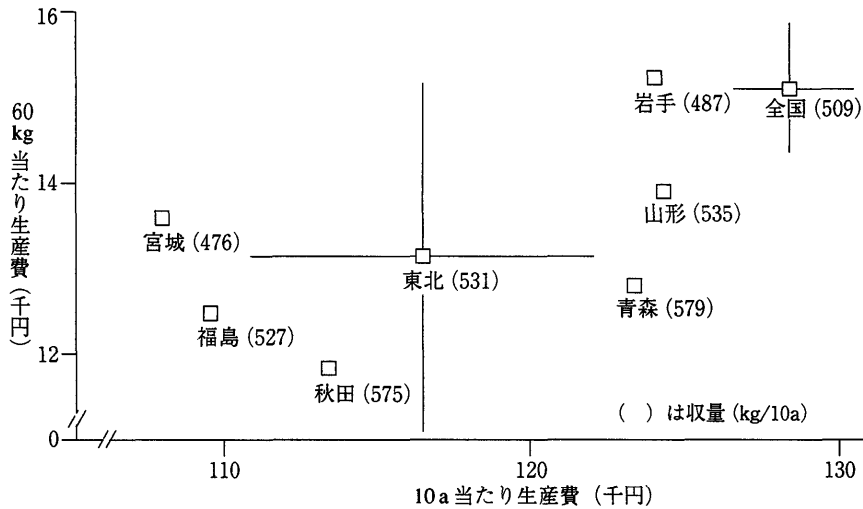
ここでは①の生産費（副産物価額差引）について検討してみたい。

東北各県間の生産費を10a当たりと60kg当たりで比較してみる（第1図）。それによると青森、岩手、山形の各県は、10a当たりの生産費が東北平均（以下、「平均」）を上回っている。その原因を物財費に関してみると、青森県では賃借料及び料金、岩手県では農機具費、山形県では土地改良及び水利費が、それぞれ「平均」を大きく上回っている（第2図）。更に青森と岩手の両県は、労働時間が「平均」より7時間ほど長く、労働費もそれだけ高くなっている。一方、宮城と福島の両県及び本県は、10a当たりの生産費が「平均」を下回っている。これは、宮城県では肥料費、福島県では土地改良及び水利費、本県では賃借料及び料金など、物財費が「平均」を大きく下回っているためである。

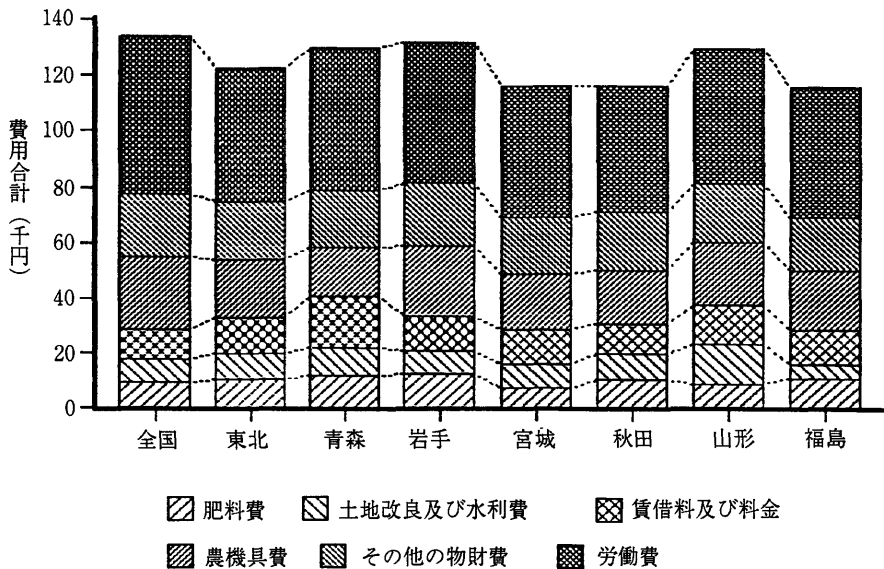
これらの各県を、米価の単位と同じ60kg当たりの生産費で見ると、10a当たり収量の多い青森県は「平均」よりやや低く、反対に収量の少ない宮城県はやや高くなっており、その点が10a当たり生産費の場合と異なっている。本県は、物財費に加え労働費も少なく、収量が多いため、60kg当たりの生産費が最も低い。しかし、物財費に占める割合の高い農機具費を節減することは重要な課題である。

このように、米の生産に要する費用は、物財費における諸費目の高低や、労働時間、収量水準などにより県間で格差がみられる。気象・土壌的にみて稲作に有利な立地条件下にある本県は、高い栽培技術の普及とあいまって、稲作の生産性は極めて高い。しかし、農家経済にとっ

ては、生産費の節減もさることながら、農業所得の確保・向上が重要となる（農外所得については触れない）ので、今回は経営費と所得について検討し、コスト軽減のための方策を考えることにする。



第1図 東北各県における10a当り生産費と60kg当り生産費  
注) 農林水産省「平成4年産米及び麦類の生産費」より作成



第2図 東北各県における10a当り費用合計の内訳  
注) 農林水産省「平成4年産米及び麦類の生産費」より作成